

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-162	13-075	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Nightlife, verbal and physical violence among young European holidaymakers: what are the triggers? 欧州青少年における休暇中の暴力、言語的暴力、夜間外出の要因		
<b>執筆者</b>		
Calafat A, Bellis MA, Fernández Del Rio E, Juan M, Hughes K, Morleo M, Becoña E, Duch M, Stamos A, Mendes F.		
<b>掲載誌</b>		
Public Health. 2013 Oct;127(10):908-15. doi: 10.1016/j.puhe.2013.05.010.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、暴力、言語的暴力、夜間外出、青少年、休暇		23906607
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> これまでの研究により夜間外出、薬物使用、暴力が関連することが確立されている。青少年の休暇中の暴力と言語的暴力の要因を検討する。</p> <p><b>方法：</b> 南欧州の7箇所の空港において英国人、独人の青少年旅行者 6,502 人を対象に身体的暴力、言語暴力、薬物使用、休暇理由、休暇地選択の理由についての質問票調査を実施した。ロジスティック回帰モデルで要因の口論、身体的暴力、言語暴力に対する調整オッズ比 (AOR)(95%CI)を算出した。</p> <p><b>結果：</b> 休暇中の飲酒は 2/3、口論は 12.4%、けんかは 2.9%の経験率であった。口論、身体的暴力、言語的暴力と関連する要因は、マジョルカ島への旅行 (AOR:口論 2.7,身体的暴力 2.0)、男性(AOR:口論 1.3,身体的暴力 1.7)、薬物使用(AOR:口論 1.5 身体的暴力 2.9)、過去の暴力 (AOR:口論 2.2,身体的暴力 2.9)、飲酒(AOR:口論 2.4,身体的暴力 2.5)、であった。16 歳から 19 歳では、イタリア、クレテ島への旅行をした者、滞在日程の半数以上バーに行った者、バーに行く理由として「飲酒」を選んだ者は、より多くの口論を経験していた。大麻使用はけんかと関連した。一方、バーに行く理由として「友好的な雰囲気」を選んだ者はけんかと負の関連であった。経済状態とバーに行く回数は口論ともけんかとも関連がなかった。</p> <p><b>結論：</b> 海外で休暇中の暴力、言語的暴力等に注目することは、健康増進、健康被害減少の目的のためにも重要である。</p>		